

自然科学の授業の思い出

教育・昭和43年卒 川根 洋二

学生時代も、振り返ってみるともうずいぶん遠い思い出となりました。当時、不勉強であまり面白くなかった授業が多かったのですが、ある時、物理の講義をしてくださっていた堀地武先生が、湯川秀樹博士の授業を受けた思い出を話されました。その中で「湯川先生の授業は全く面白くなかったのですよ。」ということを知り、そういうものかと妙に感動したことを思い出します。4年生の時、新進気鋭の近藤浩二先生が赴任されてきました。当時校舎横の庭で、学生仲間がバドミントンをするのがはやっていましたが、近藤先生も時々一緒になってバドミントンをされていました。最近希少糖が話題になっていますが、数年前の支部総会で近藤先生に講演していただきました。当時のことをおうかがいすると、よく覚えておられて、懐かしく思いました。授業では、私にとっては講義ではなく「天体観測」「臨海実習」「地質巡検」など、実習を伴ったものが心に残っています。

これは全く私だけの思い出です。分析化学の授業でしたが、与えられた液の中に何が含まれているかを調べる実験です。調べ方の手順の中に「徐熱する。」とありました。明確な反応があった友達にはここにこしていました。しかし、私の実験は顕著な反応がありません。「みんなどんどん実験がすすんでいるのにおかしいなあ。」と思いながら実験しました。後で気づいたことですが、「徐熱」を勘違いして「除熱」と捉えていたのです。つまり、温めなければいけないのに冷やしていたわけです。これでは化学反応のしかたも違ってきます。結局5種類中3種類しかわかりませんでした。先生が「3種類分かったからまあいいか。」とおっしゃってくださって胸をなでおろしました。

退職後よく釣りに出かけます。港の岸壁にペンキで大きく「港内徐行」と書いています。ところが、その字は「徐」の字の「彳」の部分の間違って「阝」を書いていたのを消して訂正しています。ペンキなのできちんと消えずに書き直しがよくわかります。これを見るたびに学生の頃を思い出して苦笑いをしています。

地質の授業では九州五所浦島へ行ったことも強い印象として残っています。受講者は十数名でした。各ポイントで説明を受けながらの授業はよくわかりました。ある個所では貝の化石が多く、石垣を築いているその石の殆どに貝の化石がありました。近くを通りがかったおじさんが「向こうの海岸は化石が多いですよ。」とおしえてくれましたが、行ってみると海岸の石のほとんどが貝の化石であったことに、私たち一行全員感動しました。その後、化石に関する授業になると、子どもたちに見せてあげられたらなあと思ったものです。

年月を経ると、思い出までが化石となって頭の隅に埋もれてしまいます。今回は昔を思い出すよい機会でした。皆さんも今一度昔を振り返ってみてください。懐かしいものです。

平成26年5月28日